防災

小学校高学年
中学校　高校
総合

シンサイミライ学校　50分

いのちを守る特別授業～“釜石の奇跡”片田敏孝教授と子どもたち～

（2012年放送）

この番組の良さ

いのちを守る防災教育

東日本大震災の際に、岩手県釜石市の子どもたちは、地震がおさまるやいなや高台に向かって走り出しました。およそ3千人の小中学生がこの素早い避難で大災害を生き抜くことができました。この「釜石の奇跡」を生み出したのが、片田敏孝教授による防災教育です。番組では、釜石市の映像を交えながら、和歌山県田辺市の中学校での片田教授による防災教育の授業の様子を紹介します。

「前は大丈夫だった。」

「自分は大丈夫。」災害に遭ってしまった時、こんなことを、私たちは考えていないでしょうか。本番組を通して「避難の3原則」をもとに、どのように行動していけばいのちを守ることができるのか具体的に知ることができます。そして、私たちの災害対応についての意識を変えるきっかけにもなります。

番組活用のポイント

「釜石の奇跡」から学ぶ

2011年3月11日、東日本大震災という未曾有の天災により、東北地方は壊滅的な被害を受けました。死者・行方不明者は約2万人と言われています。そのような中で、岩手県釜石市の小･中学生約3千人は、誰一人被害に遭いませんでした。この快挙を世間の人たちは「釜石の奇跡」と呼びました。いったいどうして「釜石の奇跡」は起こったのでしょうか。そこには片田敏孝教授の教えが大きくかかわっていました。片田教授が、どのように子どもたちの意識を変え、生き抜くための訓練をしていったのかを「釜石の奇跡」の実践例から学ぶことができます。

「奇跡じゃない、実力だ。」

番組中、釜石の子どもたちは、これは奇跡ではなく実力だと言っています。訓練通りにできたから奇跡ではなく、実力だというのです。その訓練のもとになったのが、片田教授の「避難の3原則」です。避難の3原則に基づいて訓練してきた子どもたちは、「（訓練で）やったことを、そのままできるようになっただけ。」と言います。片田教授の避難の3原則について、本番組でしっかり学び、子どもたちの自助力向上につなげていきましょう。

実践してみよう

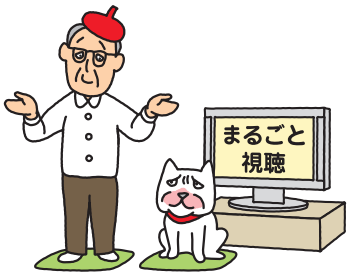
大震災の現実を知り、強い心を育むために、本番組の活用だけにとどまらず、他のティーチャーズ・ライブラリーの番組を資料として活用すると効果的です。地震や津波のメカニズム、復興への取り組みなど、学習の流れや子どもたちの問題意識に応じて選択し活用すると効果的です。

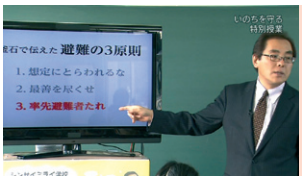
また、地域の実情に合うように、ハザードマップを用意したり、タウンウォッチングを実施したりして、実際に行動しながら、本番組で学んだことを実践するとより効果が高まります。

（山内雅博）

学習展開例　授業時間 90分

「敵は本当に津波なんだろうか」災害からみんなで生き残るには？



時間配分	学習活動	教師の支援
15分	①防災についての自分の意識を話し合う。 ②「釜石の奇跡」がなぜ起こったのか考える。 	○東日本大震災時や最近の地震の時にどう行動したか問い、防災についての自分の意識をふり返ることができるようにする。 ○「釜石の奇跡」について、分かりやすく説明する。そして、どのように子どもたちが生き抜いたのか問い、自分の考えを深めることができるようにする。 ○「釜石の奇跡」を生み出した「避難の3原則」があることを伝え、どんな内容か考えながら番組を視聴するよう指示する。
50分	③番組を視聴しながら考える。 視聴 TV ・生徒たちの防災意識をゆさぶる授業  ・「避難の3原則」の具体例とポイントを伝える片田教授	○災害から身を守るために大事だと思ったことをメモに取るよう指示する。 ○片田教授の「敵は本当に津波なんだろうか。」という問いを板書し、改めて災害時の自分たちの行動についてふり返り考えることができるようにする。 ○実態に応じて、集中力が途切れないよう適宜休憩を取る。 ○避難の3原則を板書し、その意味を確認する。 ① 想定にとらわれるな ② 最善を尽くせ ③ 率先避難者たれ
20分	④番組を見ての感想を書き、交流する。 	○「釜石の奇跡」から学んだことや、災害に遭った時にどのように行動するかということを中心に、感想を書くよう指示する。 ○感想を交流し合い、友達のいろいろな考え方にふれることができるようにする。 ○今後、地域のハザードマップを調べることやタウンウォッチングへと活動をつなげていくことを伝え、学習意欲を高める。
5分	⑤今日の学習のふり返りを書く。	○今日の学習で学んだことをノートなどに書く。

コラム　市町村HP（ホームページ）を活用しよう。

市町村のHPには、ハザードマップなど防災教育に役立つ資料が掲載されています。例えば、私の勤務校のある愛媛県西条市では、ハザードマップだけでなく、自然災害時の対応や指定避難場所一覧表なども掲載されています。（http://www.city.saijo.ehime.jp/khome/kikikanri/index.html）これらの資料を活用することで、活動の幅を広げ、当事者意識をもって学習に取り組むことができます。ぜひ、市町村HPを確認し、資料を活用してみましょう。